# みやぎ生協の東日本大震災被災者支援ボランティア活動10年をふりかえる①

## ～自主的な活動からボランティアセンターの立ち上げへ～

## 東日本大震災の概要

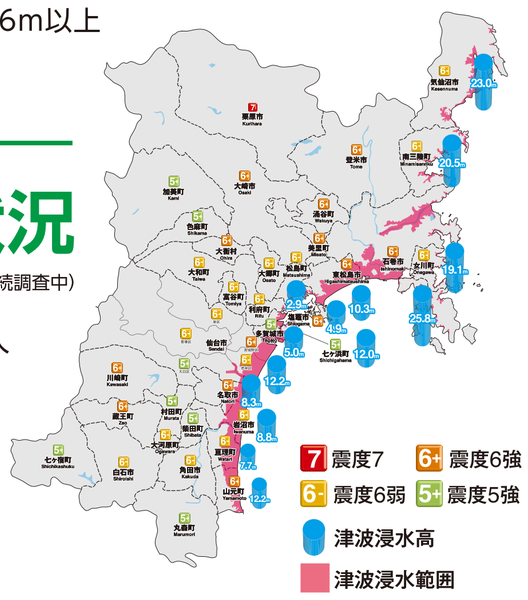
（宮城県・復興の進捗状況 2020年9月11日版より）

地　震　名：平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震
発生日時：2011年3月11日（金）14時46分
発生場所：三陸沖　※牡鹿半島の東約130km
地震の規模：マグニチュード9.0
最大震度：震度7（宮城県栗原市）
津波の高さ：仙台港7.2m、石巻市鮎川8.6m以上
県内最大遡上高：女川町34.7m

## 宮城県内の被害状況

（いずれも継続調査中）

■人的被害：死者（関連死を含む）10,566人
　　行方不明者1,219人
■住家被害：全壊83,005棟
　　半壊155,130棟
　　一部損壊224,202棟
　　床下浸水7,796棟
■被害額：9兆968億円



宮城県内の震度分布

## みやぎ生協の被害状況

■職員死亡：16人、職員ご家族死亡 140人
■職員住家被害：全壊 512軒 半壊 844軒
　　一部壊・床上浸水 1,662軒

津波の被害を受け、閉店した閖上店（名取市）

店　　舗：当日27店舗、翌日44店舗が再開（48店舗中）
　　大規模被害14店舗、内2店舗閉店、2店舗建替え
共同購入：当日の配達中断。支援物資の配送や安否確認、お見舞い活動に奔走。
被害総額：約70億円

## その時私たちは

被災する中でも、「何かしなければ」との思いから、こ～ぷ委員会やこ～ぷくらしの助け合いの会での安否確認のほか、炊出し、おゆずり会など、県内各地で自主的な活動が行われました。

避難所での活動

物資を集めてのおゆずり会

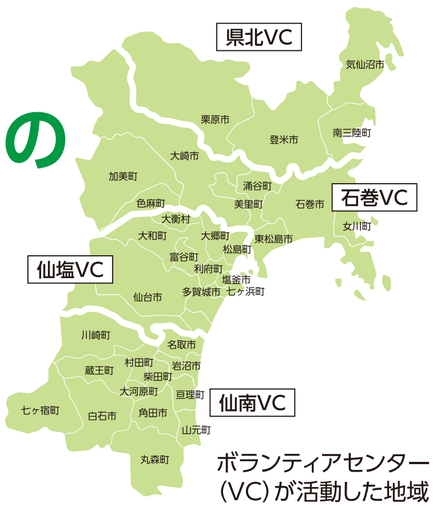
## 初めてのふれあい喫茶

2011年5月16日、石巻大橋店の店頭で、ふれあい喫茶を開催。どのくらいの方がいらっしゃるのか、どう接したらいいのかなど、不安や緊張を感じながらの活動でしたが、参加者は150人を超え、知人同士が震災後初めて顔をあわせる場にもなりました。

「震災以来初めてレギュラーコーヒーを飲んだ」「こんなほっとする時間は久しぶりだ」などの声が寄せられました。

## みやぎ生協ボランティアセンターの立ち上げ

各地で自主的に始まっていたさまざまな活動から「私たちにもできることはある」と思いを強め、県内4か所に、みやぎ生協ボランティアセンターを設置しました。



ボランティアセンター（VC）が活動した地域

## さまざまな活動が展開されました

避難所での炊き出しやふれあい喫茶、メンバー集会室などでのおゆずり会、被災者支援募金活動、応援メッセージやプレゼントのお届け、癒しや笑顔を届ける文化企画など、さまざまな活動が県内各地で展開されました。

**10年間のすべての被災者支援ボランティア活動**
総活動回数：4,311回　参加者のべ人数：137,330人
ボランティアのべ人数：31,066人

様々な生活用品を集めた「おゆずり会」

物資提供に対し寄せられた感謝のメッセージ

他生協などの協力をいただいた「避難所での炊き出し」

遊び場が減った子どもたちのための「ミニミニ運動会」

被災者・生産者を支援する「募金活動」

少しでも笑顔になってもらえるために「ミニコンサート」

支援バザーやおまつりの開催

福祉施設や生産者を支援する販売会

癒しと元気を届ける文化企画

慣れない土地に引っ越してきた方のためのご近所マップづくり

仮設住宅のみなさんと一緒に花を植える活動

思いを込めたプレゼント

この資料は全国の生協から寄せられた募金を活用して作成しました。

# みやぎ生協の東日本大震災被災者支援 ボランティア活動10年をふりかえる②

## ～ふれあい喫茶・全国からの支援～

## 県内各地でふれあい喫茶（サロン活動）を展開しました

避難所などで活動を開始した「ふれあい喫茶」は県内各地に広がり、県内4か所に設置したボランティアセンターごとに、「オープンカフェ」「さわやかお茶会」など、個性をいかした名前が付けられ、仮設住宅や店舗集会室などでの活動へ広がっていきました。

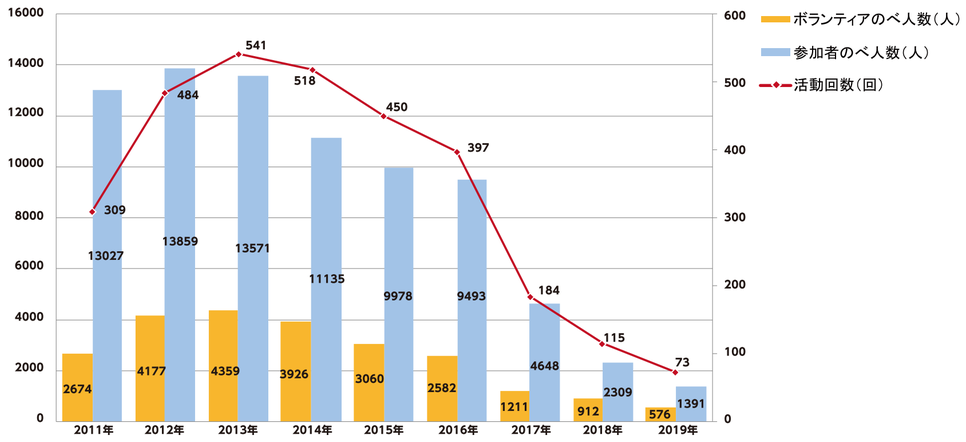
### 開催のきっかけ

- 被災されたこ～ぷ委員やそのご親戚の避難先への訪問
- 店舗近くの避難所や仮設住宅、支援の届きにくい小さい仮設住宅などを直接訪問
- 避難者が多い地域の店舗メンバー集会室でのお試し開催や、店頭で聞き取った声
- 社会福祉協議会や、行政のまちづくり推進課などを訪問してのニーズの聞き取り
- 住民や他団体からの開催を望む声など…

### 10年間のふれあい喫茶

総開催回数：3,071回　参加者のべ人数：79,411人　ボランティアのべ人数：23,477人

ふれあい喫茶（サロン活動）の推移




### 参加のお声がけや企画の工夫

世代を超えて交流できる「子育てひろば&ふれあい喫茶」

自然と会話が生まれる「小物づくり」

広い空間でのびのびと「体操」や「カラオケ大会」

大声で笑ってもらえるように「落語公演」

仮設住宅でのくらしに役立つ「くらしの知恵の学習会」

男性の参加につなげる「男の料理教室」

### さまざまな連携

医療機関と協力した「健康相談会&ふれあい喫茶」

仮設住宅自治会のみなさんといっしょに、おまつりなどのイベント開催

### 仮設住宅でのつながりから復興公営住宅での活動へ

仮設住宅から復興公営住宅へと転居がすすむにしたがって、仮設住宅でのつながりから、自治会や住民の方々からの依頼で、復興公営住宅でのふれあい喫茶やおまつり支援などへも広がっていきました。

## 全国の生協からの様々な支援に感謝

**10年間で寄せられた被災者支援活動のための募金**
**約1億5千万円**

もっとも大きな連携や支援は、全国各地の生協から寄せられた、募金やメッセージ、ふれあい喫茶のためのお菓子や物資の支援などでした。さらに、定期的なサロンやイベントの開催、被災地視察、来訪や訪問による交流、商品購入など、その連携や支援は多岐にわたりました。

**被災者支援活動を継続することができたのは、全国の生協の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。**

**全国の生協から寄せられたお菓子や応援メッセージの数々**

ふれあい喫茶では、お菓子と共に届いたお手紙を読み上げました

コープこうべ「各地区とつながった支援・来訪交流」

コープネット事業連合（現コープデリ連合会）「ふれあい喫茶」

生協ひろしま「お好み焼き隊」

京都生協「餅つき」

生協共立社「各地区とつながった支援・来訪交流」

コープぎふ「五平餅づくり」

さまざまな物資の提供

生産者支援

来訪交流・被災地視察

COOP MIYAGI

この資料は全国の生協から寄せられた募金を活用して作成しました。

# みやぎ生協の東日本大震災被災者支援ボランティア活動10年をふりかえる③

## ～生活再建に向けた取り組み・支援者の支援～

## 生活再建に向け、被災された方々の声を行政などへ届けました

くらしの再生・再建がすすむよう、被災された方々の声を直接聴く場「生活再建のための懇談会（被災者懇談会）」を2011年10月から開催し、その声を行政に要望書として届けたほか、首長・県議・市議懇談会テーマとして取り上げたり、被災者のくらしの現状を多くのメンバーにお知らせしました。

**懇談会・出前講座等の開催（2011年～2017年）** 計42回開催 のべ543人参加

2011年

石巻市内での懇談会

宮城県への要望書の提出

プレハブ仮設住宅の設備や環境についての意見が多く、「生活再建に関する要望書」として宮城県に提出して、仮設住宅のお風呂の追い炊き機能の追加工事などへつながりました。

2012年

仙台市の被災地域で、使用できない下水道料金が請求されている件などについて要望書を提出し、仙台市から料金還付等の回答を得ました。

2012年

気仙沼市では、有志の市議を招いて「復旧・復興出前講座」を開催し、土地区画整理事業などへの具体的な質問が多数寄せられました。

## 「とうほくてしごとカタログ～FUCCO」（手作り商品カタログ）の取り組み

被災された方の生活再建や生きがいづくり、コミュニティづくりの一助となるよう、“復興応援”手作り商品カタログの制作・普及を通して、手作り団体への支援に取り組みました。
これは、遠くからでもできる支援方法として、今後の災害でも、さらにコロナ禍で人と人とが直接会う支援が難しい中でも取り組むことができる、復興支援のひとつのかたちにもなりました。

発行したカタログ

販売支援の取り組み

古今東北販売会での販売

交流会の様子

**カタログ発行数：通算16冊（計38万3,000部）**

■手作り商品カタログ 3冊　■新・手作り商品カタログ 7冊　■FUCCO 6冊

### 支援のあゆみ

| | |
|---|---|
| 2012年～ | 仮設住宅などで誕生していた手仕事を行う団体と、メンバー活動のつながりやサロン活動で出会う。 |
| 2012年11月 | 手作り団体の販路拡大支援としてカタログの発行を開始。（あわせて、福祉共同作業施設の商品も掲載） |
| 2013年～ | 「3.11を忘れない取り組み」として、店頭での販売活動開始。→この取り組みは、さらに募金活動や防災減災をメンバーに伝えていく取り組みなどへ発展 |
| 2014年～ | 「NPO法人応援のしっぽ」との協同制作「新・手作り商品カタログ」発行開始。 |
| 2015年～ | オーダーメイドの受け付けを開始。 |
| 2017年～ | 「とうほくてしごとカタログFUCCO（フッコ）」としてリニューアル（手作り団体の皆さんがタイトルを命名）。交流会などで顔の見える関係づくりへ。 |
| 2018年～ | 委託販売のしくみを導入。交流会やスキルアップ学習会などを開催。仙台駅前AERでの古今東北販売会で販売開始。 |
| 2019年～ | 出店販売やワークショップなど、交流の機会を広げる。 |
| 2020年～ | コープ東北ネットショップでの取り扱い開始。 |
| 2021年1月 | 最終号となるFUCCO vol.6発行。 |

## 支援者の支援

活動に参加するボランティアサポーターのために、さまざまな学習会やサポーター交流会、ボランティア体験会、シンポジウムなどを開催し、「支援者の支援」に取り組みました。

**支援者のための学習会・交流会の開催**
計105回開催 のべ3,343人参加

コープこうべの阪神淡路大震災時の活動を学んだ、最初の学習会

自分たちの活動をふりかえり、今後の活動を確認するためのシンポジウムの開催

支援者自身の「心のケア」のための学習会や、傾聴を学ぶ場、互いの思いを話す場づくりなど

他の支援団体と連携して立ち上げた「支援者のための支援センターTOMONY」による心のケアにも取り組みました。

支援者のための冊子の発行やリフレッシュ企画などを実施。

この資料は全国の生協から寄せられた募金を活用して作成しました。

# みやぎ生協の東日本大震災被災者支援ボランティア活動10年をふりかえる④

## ～地域への発展・震災を伝え災害に備える～

## ふれあい喫茶から ふれあいカフェへ

### 地域の居場所づくりへ発展

被災された方々を対象に開催していた「ふれあい喫茶」は、年月が経つにつれ、地域のさまざまな方々が集う場になっていきました。2016年度からは、この「ふれあい喫茶」の活動で学んだことを活かして、地域に住む誰もが気軽に参加でき、コミュニティや情報交換の場である「ふれあいカフェ」へ活動を発展させ、「地域の居場所づくり」へとつながりました。

店内の休憩スペースを活用して立ち寄りやすく

メンバー集会室で開催し参加を有料にしたところも

集団移転団地内の集会所でボランティアが立ち上げた会場

町内会のみなさんと協力して開催

## 被災地を学び、震災の風化を防ぐ

### 3.11を忘れない取り組み

県内各地のこ～ぷ委員会では、2012年度から毎年2～3月を中心に、支援の継続や防災・減災について考え、災害への備えや震災を風化させず語り継いでいくことの大切さなどを、多くの方へ呼びかける取り組みを行っています。

被災された方々の手作り品販売

被災者支援活動のための募金の呼びかけ

備蓄に向く商品の展示や試食提供をしながら、ローリングストックを紹介

新聞紙でスリッパを作るなど、くらしの知恵を紹介して備えを呼びかけ

### ローリングストック普及などの防災・減災の取り組み

災害に備えるメンバーを増やすため、地域での学習などさまざまな場面でローリングストック（循環備蓄）の普及に取り組んでいるほか、親子体験型で学ぶ機会もつくっています。

ローリングストックのしかたや商品を展示して紹介

小学校の依頼を受け、ローリングストック学習の講師をしました

親子を対象に、火おこしや簡易テントづくりの体験で、身近なもので身を守ることを学んでいます

防災フォーラムなどのイベントへ出展し、広く災害への備えを呼びかけています

### 被災地訪問、他生協の来訪受入

津波で被災した地域への訪問や震災語り部のお話などを通して、被災地の変化や復旧・復興状況を自身の目と耳で確かめ、被災された方々への思いをはせ、復興に取り組む方々を応援し、支援や防災、災害を語り継ぐことを考える機会にしています。

地域でそれぞれにテーマをもって、沿岸部などへの訪問を企画しました

訪問した報告を店内などへ展示し、現状を伝えています

スタディツアーとして、広く参加者を募集した企画もありました

全国各地の生協からの視察コース調整や案内も行いました

### 自然災害被災地への支援

これまで支援いただいた恩返しの思いを込めて、他の地域での災害被災地の視察や現地でのふるまい企画、プレゼントやメッセージを送る活動などに取り組んでいます。

豪雨被害を受けた広島で、生協ひろしまのみなさんと共に、炊き出しやイベントでのふるまいを行いました

熊本地震の被災地域や生協くまもとのみなさんが開催する「こーぷ喫茶」を訪問したほか、現地商品の購入支援も行いました

豪雨被害を受けた地域で被災された方や支援している方などへ、暑さをしのぐ「ひんやりタオル」を作ってお届けしました

被災地のサロン活動で使えるよう、小物の材料と作り方を入れたキットをつくるボランティアにも取り組みました

## 震災を受けて始まったボランティア活動のまとめと今後に向けて

東日本大震災という未曾有の災害が発生し、困難は多くありました。しかし、ふだんのくらしの中でさまざまな活動を行い、つながりを作ったおかげで、同じ被災地の住民として寄り添い、助け合って、さまざまな活動に取り組むことができました。
そこには、全国各地から寄せられた多くの支援も、大きな力になりました。
これからも、日頃からのコミュニケーションやつながりを大切にしながら、この経験を伝え、共有し、今後の活動へつなげていきます。

みやぎ生活協同組合

この資料は全国の生協から寄せられた募金を活用して作成しました。